

上方落語五流派競演会2

笑福亭 鶴光



桂 都丸



林家 染二



桂 文福



桂 福団治



2007年

5月27日【日】14:00開演 (13:30開場)

茨木市市民総合センター

クリエイトセンター・センターホール

全席指定 1階席3,000円 2階席2,500円

*割引=65歳以上、18歳以下、障害者及びその介助者の方は500円引き

*就学前のお子様はご遠慮ください

*3月26日(月)発売

◆チケットの取り扱い・お問い合わせ

(財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館ユーアイホール1階 8:45~17:15)

◆その他の販売所

JA茨木市各店舗 072-627-7762 (本所総務課) / フミレコード阪急茨木市駅前店 072-626-3723

朝日野村北摂販売(株) 072-643-8424

ローソンチケット 0570-000-777・Lコード予約 0570-084-005 (Lコード 53822) ※ローソン各店舗で購入できます

電子チケットぴあ 0570-02-9999・Pコード予約 0570-02-9966 (Pコード 375-856)

※ローソン・ぴあでは割引の取扱いはありません。

◆主催: (財)茨木市文化振興財団

◆制作: 三栄企画

◆構成: 相羽秋夫

【番組】
 「上方落語界の現状」 相羽 秋夫
 *
 「軽業講釈」 林家 染二
 「青葉積」 桂 都丸
 「竹の水仙」 笑福亭 鶴光
 中人
 「大相撲おもしろ甚句」 桂 文福
 「藪入り」 桂 福団治
 お囃子／なにわの会

「落語ブーム」の中の上方落語の真髓



相羽秋夫

演芸評論家
大阪芸術大学教授

二〇〇六年九月十五日―上方落語界にとって画期的な日となった。

「ご存知、「天満天神繁昌亭」が、天神祭で大阪人の心のふるさとになっている天満天神宮に隣接する地に建立され、この日オープンしたのだ。

かつて、大阪も寄席と言えば、落語や講談、浪曲といった芸が主流であった。

だが、漫才の台頭によって、これらの芸は漫才に首座をゆずっていた。

なんとか落語の定席を持ちたいと上方の落語家は悲願としてきた。

その夢が叶ったのだ。

この背景に「落語ブーム」がある。テレビドラマ「タイガ&ドラゴン」に端を発して、東京でブームの火がついた。

それが、やっとのことで上方にも波及して、寄席建立の後押しをしたのである。

「繁昌亭」は、開亭以来快調にお客さんを集めている。

新しい浪速名所になろうとしている。大阪近郊はおろか、全国各地から、生の落語に触れたいとたくさんの方が訪れている。

演者は、この熱気に押されて、上方落語の存在を、全国のファンに印象付けようと、暑い毎日を送っている。

こうした緊張感が漂う中での、今回の落語会である。とりわけ、この会には意義深いものがある。

上方落語家の数は三年前に二百人を超えた。これらの落語家はおおむね五つの一門に分かれて所属している。

それらの一門から、一人ずつ代表演者を選んで、それぞれの一門の威信をかけてぶつかり合う会であるからだ。

当財団では、一昨年に第一回の「五流派競演会」を開いたところ、大絶賛を博し、二回目開催を希望する声が圧倒的であった。

そうした皆さんのご要望に添えてのアンコールの会である。今回も、各一門の精鋭が、ずらりと顔をそろえた。

しかも、個性豊かな演目が並んだ。熱い高座が展開されることを、私が保証する。

それでは、五流派の顔ぶれと演目をご案内したい。

まず、「林家一門」の代表は、林家染二である。染丸を柱とするこの一門の筆頭弟子である。早くからその才能を認められ、数々の賞に輝いてきた。

古典、新作の双方をこなすが、今回は古典「軽業講釈」で重責を果たす。

「米朝一門」の代表は、地元茨木在住の桂都丸である。

米朝の直弟子ではないが、今や米朝の筆頭弟子になったたぎこばの一番弟子である。

スケールの大きい語り口調に定評があり、「青菜」にその真価が発揮される。

長らく東京に活躍の場を求めている笑福亭鶴光は、「笑福亭一門」の切り札として登場する。

故六代目松鶴の二番弟子だ。その才気溢れる高座は、東西共に認めるどころだ。

「竹の水仙」が、それを如実に証明する。

趣味の相撲好きが、今や仕事になってきた。マスコミで相撲を語る機会が多いし、何冊も本を書いている。

そうした延長線上に生まれた新作の「大相撲おもしろ甚句」を出すのは、「文枝一門」の才人、桂文福である。抱腹絶倒の斬だ。

□

トリの桂福団治は、「春団治一門」の筆頭弟子で、上方落語界の中枢にいる逸材である。

「人情囃」を得意とし、「藪入り」も、親子のほのぼのとした情を描く傑作で、必ずや心やすらぐことであろう。

「関西演芸協会」の会長でもある。

敬称略

◆チケットの取り扱い・お問合せ

(財) 茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館ユアイホール1階 8:45~17:15)

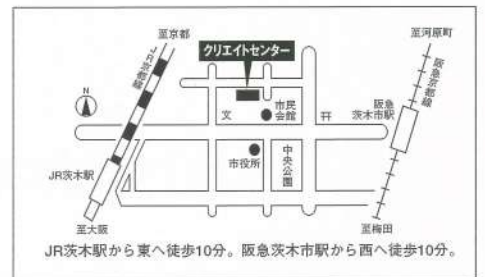
* 発売初日から電話予約もお受けしますがお席はお任せいただきます。

* 予約後は、1週間以内に財団窓口でご精算ください。

* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送料290円〉を、郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払い込み確認後の発送となります。

〈振替口座〉00970-7-190576 / 加入者名: 財団法人茨木市文化振興財団

* 窓口販売と電話予約が競合する場合は窓口販売を優先しますので予めご了承ください。



印刷パッケージ材料・シール印刷製品のご用命は当社まで

日栄印刷紙工株式会社

〒567-0878 大阪府茨木市蔵垣内1丁目1番9号

TEL: 072-627-7001(代) / FAX: 072-627-7045